

白井市総合計画審議会委員委嘱状交付式及び  
平成29年度第2回白井市総合計画審議会 議事概要

日 時：平成29年8月31日（木） 午後3時から

場 所：白井市保健福祉センター3階団体活動室

出席者：【委員】 関谷 昇委員、助友 裕子委員、手塚 崇子委員、竹内 正一委員、  
松本 千代子委員、中里 敏康委員、藤田 均委員、野水 俊夫委員、  
近藤 恭子委員、石澤 猛委員、鈴木 フミ子委員、西飯 峰委員、  
橋本 哲弥委員、山本 昌弘委員 14名  
[欠席者] …山崎 信男委員 1名

【事務局】 高石企画政策課長、冨田主査補、時田主事補

傍聴者：5名

## 1 委嘱状交付式

### (1) 委嘱状交付

総合計画審議会委員へ伊澤市長から委嘱状を交付した。

(任期：平成29年8月31日～平成32年8月30日)

### (2) 市長挨拶

本日は、大変お忙しいところご出席いただきましてありがとうございます。

また、総合計画審議会委員を快くお引き受けいただき、重ねてお礼申し上げます。

平成28年度から第5次総合計画がスタートしていますが、委員の中にも計画策定にご尽力いただいた方もいらっしゃると思います、厚く御礼申し上げます。

本市は農業を主要産業として発展し、昭和42年には千葉県最大の内陸工業団地が造成され、工業のまちとなり、昭和54年には千葉ニュータウン事業により人口が増加し、現在も微増の状況です。

しかし、3年後、平成32年をピークに人口が減少するという予測をしております。その人口減少予測を少しでも食い止め、活力あるまちを築いていくことが、今、我々が抱えている大きな使命であると思います。先人が築き、我々がしっかり守って、次の世代へと引き継いでいくためには、計画行政を進めていかなければならないところです。

このような中、第5次総合計画を策定し、今年には、民間の経営感覚で行政を運営する行政経営改革指針を策定し、持続可能な行政運営をしてまいりたいと思っています。

それには、市民の皆さん、多くの方々のご指導、ご協力が必要であるのは、言うまでもありません。委員の皆様方には、この白井市の将来のため、そして次を引き継ぐ子供たちのために、まちづくりにご指導、ご鞭撻をよろしく申し上げます。簡単ではありますが、皆様方のますますの活躍を心から祈念いたしまして、挨拶とさせていただきます。まことにありがとうございます。

### (3) 委員自己紹介

事務局から委員15名を紹介するとともに、出席者については、1人1人自己紹介を行った。

## **2 平成29年度第2回白井市総合計画審議会**

### **(1) 会長・副会長の選任について**

会長は、竹内委員からの推薦により関谷委員に、副会長は、関谷会長からの推薦により助友委員を選任した。

### **(2) 白井市第5次総合計画の概要について**

#### **【会長】**

今日の全体の予定は、総合計画の概要について事務局から説明いただいて、委員同士で共有したいと思います。

その上で、今後、外部評価という話になりますが、簡単にいうと、これまで行政運営は内部評価中心だったのに対して、近年は、外部の目線から評価していくという流れがかなり強まってきています。内部評価だと甘い部分があったり、発想という部分でも限りがあるという中で、外部の目線から様々な立場の方々の意見をいただくことで、より良い行政運営につなげていくという取組を新しく導入することにしています。後ほど事務局から説明がありますが、その進め方等について確認するというのが、本日の会議の基本的な趣旨になっています。

それでは、(2) 白井市第5次総合計画の概要について、事務局から説明をお願いします。

#### **【事務局】**

資料に沿って説明

#### **【会長】**

今、事務局のほうから説明があったように、平成28年度から第5次総合計画が動き出し、今年度は計画の2年目になります。そこで、この審議会に主に課せられている役割は、この総合計画の進捗状況を皆さんの目線からチェックしていくことになります。

まず今、事務局から、現在取り組まれている総合計画の主な概要について説明がありましたが、今後の外部評価をしていくに当たって、確認しておきたい部分がありましたらお願いします。

#### **【委員】**

3つの重点戦略があるということですが、この3つは独立してあるわけではなく、有機的につながっているはずなので、どういうふうに総合評価していくのでしょうか。

#### **【事務局】**

戦略ごとが有機的につながっているということですが、例えば、拠点創造プロジェクトにより拠点がにぎわって、駅周辺が魅力的になれば、若い人にとっても魅力的なまちになり、若い世代定住プロジェクトにつながるというように、戦略同士については関連

し合っていると考えております。30ページの図を見ていただくと、戦略1、戦略2、戦略3と並列的に書いてありますが、重点戦略を縦方向に串を刺すような線があるというイメージです。

#### 【委員】

印西市と白井市の総合計画を比べて、ここが白井カラーみたいなものがあるのでしょうか。物件が高くて印西に買えなかったから白井に来たという方もたくさんいらっしゃいます。私は、もともと我孫子に暮らしており、現在白井に10年弱暮らしていて、割と市民の声が届きやすい、ちょうどよい規模の自治体だと思うのです。白井ならではのものが、どう盛り込まれていますか。

#### 【事務局】

今後、ニュータウン地域を中心に一斉に高齢化が始まることが予想されるので、若い方に外から来ていただくということに加え、白井市で育った人に白井市に住み続けていただきたいということで、若い世代定住プロジェクトを立ち上げています。

また、白井の特産品で自慢の梨について、後継者不足等により、梨農家をやめる方も出てきている中で、いかに白井として守っていくかということに力を入れるため、みどり活用プロジェクトを立ち上げています。

そして、今後、高齢化が進んでいく中で、コミュニティの低下も懸念されます。歩いて行ける場所に、話し相手がいて、集まれるような拠点を、各地域につくっていききたいという意味で、拠点創造プロジェクトを立ち上げています。

さらに、今までは、総合計画に様々な取組を網羅的に定めていましたが、今回が初めて今後10年間、3つのプロジェクトに重点的に進めるということ明示したということが、大きな特徴となっています。

#### 【会長】

総合計画に、まちの特徴を描くことは難しいところでもあります。あるものを描いたら、こっちはだめなのかという議論になりがちですが、今回、思い切って3つに焦点を合わせた重点戦略プロジェクトを定めて、少し踏み込んだ計画にしたことが特徴だと思います。

また、先ほどご質問にあった有機的なつながりというのは、全くおっしゃるとおりで、ここが他の自治体でもうまくいっていないのが実情です。ほとんどが、すみ分け論で、かつ、金太郎飴的に総合計画を策定している自治体が多いですが、それぞれの分野でも色々と組み合わせることで、資源の結びつきをつくり出したりできるので、現段階で可能な限りのものは、一応この計画に入れ込んでいる。ただ、何と何を結びつけるかは未知数ですので、まずは総合計画の進捗を見て、もっと組み合わせる部分も皆さんからアイデアをいただいて、進めていきたいと思っております。

#### 【委員】

表紙を見ると西暦で書かれていて、大体ほとんど元号が書かれていますが、表記方法に何か統一性があるのか、また、年度か年かというところを教えてくださいたいと思います。

**【事務局】**

西暦と元号に統一的な考え方はありません。年か、年度かという部分は、基本的には年度です。基本構想は表紙では2016から2025になっていますが、平成28年度から37年度ということになります。

**【委員】**

基本的には、特に将来のことに関しては、西暦表記にしてもらおうと良いと思います。

**【委員】**

白井市としては、かなり思い切ったことをやっていかないと厳しいと思っています。隣の印西市では、人口的には白井市と比べても3万程度しか変わらないのに、多くの人々が印西市のほうに目を向けてしまっているように見えます。白井市として、印西とは、もっと違ったところを見ていくべき部分とか、伸ばしていったほうが良い部分とかありますか。

例えば、農業にしても隣市も梨が有名で、白井市として、梨農家さんももっとPRしていくには、どうしていったらいいのか、後継者もない中で、これからどういうふうな農家さんを伸ばしていったらいいのか、儲かる農家にしていくには、どうしていったらいいのだろうか、ということです。

また2020年には、オリンピック・パラリンピックがありますが、白井市は、あまり絡んでいないような気がします、どうでしょうか。

**【事務局】**

印西市との比較について、確かにライバル的な視点がなくはないところであります。

ただ、計画の策定に当たっては、自分の強みを生かして伸ばしていくことを主眼に置いているところです。

オリンピックについては、成田と羽田の間にある白井の立地条件の強みと考えていますので、何かできることはないかということは考えているところです。

先日、ある千葉県のオリンピックの関係の方が、白井の運動公園を視察に来た際に、一流チームは難しいけれども、活用してくれるチームもあるのではないかとアドバイスもいただいています。

また、運動公園の近くの市民プールも、選手がクールダウンするのに良いという意見もいただいています。

現在、千葉県のスポーツコンシェルジュのホームページに運動公園の紹介記事が掲載されている状況です。

**【委員】**

白井市が、印西に勝っているものがあります。私は防災に3年ほど前に係っていて、私たちが資料をつくって、印西市役所に意見交換に行ったりしました。だから、防災について白井はすごく進んでいて、印西市より優れています。

**【委員】**

製造業の出荷額も圧倒的に勝っています。

**【委員】**

勝っているところはいいですが、いつまでも勝っているという安心ではなくて、白井市としての今までにない強みを何かつくっていかないといけないと思います。

私個人的には、梨農家さんも、今、若い方が一生懸命取り組んでおられますが、何か今までと違った梨の発信の仕方があるのではないかなと思います。梨農家さんは、本当に年間を通して、相当苦勞して大変な思いをして梨をつくられています。もう少しこうすればもっとやりやすいよねとか、もっと儲けることができるかもしれないよねという強みをつくれるといいと感じました。

**【会長】**

他市と比較しても、多分いろいろな特徴があると思いますし、ご指摘のように、それを含めて強みをどういうふうに膨らませていくか、逆に、まちづくりの弱さという部分を少しでも底上げしていくか、いろいろあると思います。そこは、戦略の立て方として十分に練り切れていないところがあって、まずは今回、この総合計画をかなり踏み込んだ形で策定し、28年度からスタートさせた。

でも、今後、これが戦略的にどういうふうに生きているのか、これからどんな動きがつけられていくのかという部分では、まだまだ踏み込み切れていないところがありますので、そういう部分は審議会でアイデアをどんどん出していただいて、運用の中に反映させたり、次期の計画の中に反映させていくということもできます。つまり、この審議会で議論すべきことが、白井の特徴をもっと膨らませ、次につながってくると思います。

**【委員】**

総合計画を策定した後に、千葉県と国土交通省が話し合いをして、国道16号線に北千葉道路をつなげるという話が出ていますが、道路課等ではどういうふうな形で話し合いをされているのですか。具体的に新しく道路が変わってきて、大きなポイントになると思いますし、工業団地でも、今後、生産したものをどういう形で運んでいくのか、特に大型化している車両は、現在の道路では全く対応できないでしょう。農業生産にしても、そうだと思います。

だから、そういう時流に合ったものをいち早く取り入れるということは大事なことで、そのあたりの進め方について、どう考えているのでしょうか。

**【事務局】**

北千葉道路は、国道464号線の成田から、外かく環状道路の市川と松戸の間にできている北千葉インターまでの道路で、昔から計画されていたものです。環状道路が完成が見えてきたので、構想道路レベルのものが、事業を実施に向けて計画が具体化してきました。

これは、一般国道事業でやるか、有料道路事業でやるのかということは、うわさではいろいろあったわけですが、有料道路事業工事を取り入れたほうが早くできるということで、決定されたということです。これから、3・4年程度かけて、環境アセスメント調査などの調査をして、その後具体的な工事の検討に入るという段階にあります。

市としても、これは大きな1つの契機にはなるというふうに考えており、現在、都市計画課が主担当課となって、様々活動していますが、お互い情報共有しながら、進めているところです。

**【委員】**

市の方針として、どうやるのかという結論を出したほうがいいと思います。高速化するのであれば、当然インターチェンジをつくるわけで、国道16号線が交わっている付近にインターチェンジができると思います。そこで、市が早く名乗りを上げて、白井インターをつくって、白井という知名度を上げないといけないと思います。

**【事務局】**

今ご指摘のあったことは、担当者レベルの中で話が出ているところです。

**【委員】**

担当者じゃなくて、市の方針としてどうしたいということを早く決めて、そういう予算措置もとれるように考えた方がいいと思います。

**【事務局】**

現在、協議会というものができており、様々な要望の取りまとめ等を今後詰めていくことになると思います。今の時点では、市として、北千葉道路について、どう活用していくかは、先手、先手で考えていかなければならないと認識しています。

**【委員】**

認識して今までどおりに進んでいくのと遅れてしまいます。今の世の中は、そんなに甘いものではなくて、スマートフォンでみんなが情報共有している時代です。早くやらないといけないと思いますので、要望としてお願いいたします。

**【事務局】**

わかりました。

**【会長】**

いろいろ深めていく必要がありますけれども、この総合計画全体について、今の段階で確認しておきたいことはございますか。

**【委員】**

25ページの将来都市構造に、計画道路と構想道路があります。計画道路は、予算化もされ、工事も進みつつあるというところですが、構想道路を計画道路にするためには、どうしたらよいのでしょうか。

**【事務局】**

具体的には、予算を見込んで何年から何年の間に調査をかけてというスケジュールをある程度組んで、実施計画上に載っていくという段階になろうかと思えます。費用対効果の面などを議論して、費用と便益の面から確かに必要だということが見えてくれば、実施計画に載ると考えられます。

**【委員】**

部課長クラスの会議がありますが、我々はそこに意見を言う立場です。審議会として意見をまとまって出すことはできますか。

**【事務局】**

必要な道路だから促進したほうが良いといった意見は遺憾なく出していただければと思います。

**【会長】**

道路のあり方などについても、今年度、来年度に評価をしていく中で関連してきますので、その際に是非ご意見を言っていただいて、どういう形で今後可能性を開くのかというアイデアをいただきたいと思えます。

では、平成28年度からスタートした総合計画の概要を確認いただいた上で今後、外部評価をどういう形で実施していくかを事務局に説明いただき、議論を深めたいと思います。

**(3) 行政評価及び外部評価について**

**【会長】**

次第の3、行政評価及び外部評価について、事務局から説明をお願いいたします。

**【事務局】**

資料に沿って説明

**【会長】**

事務局から説明いただきましたが、ポイントは施策評価をするということです。資料2に行政評価の構成というピラミッドがありますが、ピラミッドの中央の施策の範囲でこれから評価していくこととなります。施策は、3つの重点プロジェクトごとに3つずつ、合計9つの施策があり、今年度はこのうち4つを評価し、来年度残りの5つを評価するという形になります。

私も経験ありますけれども、個々の事業の評価では、本当に目標に到達するのかという課題もあって、個々の事業ではなく施策単位で評価したほうが、より大きな結果を出せる改善につながるのではないかとということで、今回、施策評価を行っていくことにな

ります。

施策評価シートをみると、1次評価、2次評価は、いわゆる内部評価、行政組織の内部で評価を既に行っており、この審議会では3次評価を行います。評価の視点は、2次評価と同様に、コスト、協働、効率の面から評価をいただくということですが、あまりとらわれず、皆さんそれぞれのお立場、お考えのもとで評価をしていただきたいと思います。

外部評価は、10月13日に予定しておりますが、その前に資料が皆さんのもとに送られますので、それをご覧いただいた上で、当日のヒアリングに当たっての事前の質問シートを9月28日までに記入して事務局に送っていただくことになります。当日は、それを踏まえた上で、各関連する担当の部長、課長にヒアリングをしていくという形で評価を進めていただきます。

この進め方で質問があれば、お願いします。

#### 【委員】

評価のつぼみみたいなのを教えていただきたいのですが、定量的評価の部分の特に見て、遅れているものに注目して、市民としての意見を出していけばよいのでしょうか。

#### 【事務局】

定量的評価については、基準となる数字がなく、高いのか低いのか判断しづらい部分が今年度は特にあると思います。来年度、評価する際には、2年間の数字が比較できますので、上昇したとか下降したとかの判断はあるかと思いますが、今年度は定量的評価だけで評価するのは難しいので、課題や今後の方向性の面から、違う方向性のほうが有効ではないか、そういった視点でご意見をいただきたいと思います。

#### 【委員】

わかりました。

#### 【委員】

事務事業評価シートが送付されるということですが、施策評価シートとは別に違う資料が送られてきて、それをもとに評価するということですか。

#### 【事務局】

事務事業評価シートというのは、施策の構成事業に記載している1つずつの事業の評価シートで、平成28年度の取り組みや結果示した評価シートです。9月上旬に送付しますので、そちらも照らし合わせながら見ていただければと思います。

#### 【会長】

定量的評価は先ほど説明にもありましたように、1つは客観的な動向を表すもので、もう1つはアンケート調査による市民の主観的な満足度ということになりますが、平成28年度から始まっているため、定量的評価の蓄積がまだないのが今の状況です。今後5年間で蓄積されていきますが、当面は、平成32年度を見通した上で、今の進捗度で

いいのか、今のやり方でいいのか、改善しないと平成32年度の目標値に達しないのではないかと、といった目線で評価を加えていただきたいというところです。

課題については、そういうデータを踏まえながら内部で出てきた課題ですので、この部分を課題として詰めておかないと課題解決に結びつかないのではないかなど、委員の皆さん、それぞれご自身なりに気づいた点、お考えになった点を自由に出していただきたいと思います。

こういったことを評価の視点として捉えていただいて、今後送付される事業単位の評価シートを踏まえた上で、施策の進みぐあいがどうかということの評価して考えていただきたい。個々の事業のあり方にまで踏み込むと、評価しきれないし、いろいろな事業に関連する中で考えた方が、より大きな視点で評価することもできるので、施策単位の視点で評価いただきたいと思います。

#### 【委員】

評価の方向性を確認させてください。私は、定性的評価を見て、今この施策は、こういう方向へ向かっているという具体的なイメージを多分膨らませると思います。その中で、今、こういう部分が負の側面として現れているので、こういう改善をしたらどうかという提案をしたいと思います。もう1つは、初めに関谷会長がおっしゃったように、戦略として弱みの部分をいかにボトムアップしていくかに加えて、強みを促進していくということ、つまり、この部分はとても良い傾向なので、更にこう伸ばしていったらいいのではないかとという提案も必要だと思います。

特に後者のほうを忘れないでおきたいというところが1点と、もう1点は施策としての最終的な方向性は、市民の満足度が高まるということなので、この施策が市民全体のどういう集団に、影響を与えているのかという視点が大事と思っています。できるだけこの施策によって影響を受ける集団を想定したほうが、有効なアプローチを具体的に提案ができると思います。

#### 【会長】

基本的には、そういう方向性で良いと思います。1つは、強みの部分をもっとどう伸ばせるのかということは、ぜひ外部評価ならでの視点として、行政サイドだけではなくかなか出てこない斬新なアイデアなどを出していただきたいと思います。改善した方が良いという意見と、積極的に取り組んだ方が良いという意見と、両方いただければというふうに思います。

もう1点は、影響を受ける団体を念頭に置くことも非常に大事なことで、例えば若い世代定住プロジェクトの、ゆとりある暮らしを支えるまちづくりについて、皆さんご自身の所属されている団体や、取り組まれている分野、活動内容、関心といった視点からご覧いただけると、おのずと意見はでてくると思います。そういう意味では、関心がない分野、テーマだと考えるのではなく、どのテーマにしても、それぞれ皆さんの

関心、知識、技術等を踏まえた上でご意見をいただけると、分野別の縦割りの話ではなく、先ほど確認しました有機的なつながりができてくると思います。

例えば、子育てしたくなるまちづくりについても、子育ての問題を子育て分野だけで捉えていると、絶対発展性はないと思います。子育てと高齢者福祉、子育てと農業、子育てと都市計画、子育てと地域コミュニティといった様々な視点から見ることで、現実も見え、可能性も見えてきますので、常にそういう視点からご意見をどんどん出していきたいと思っています。

#### 【委員】

これからの行政評価に求められる視点で、資源はどんどん縮小していくということを前提に考えたほうが良いかなと思っています。スクラップアンドビルドではなく、スクラップアンドリセットというのが大きなコンセプトだと思っており、風呂敷をどんどん広げていくのは簡単なのですが、そうではないことを考えていくということでしょうか。

#### 【会長】

そういうイメージです。ぜひ事務局から行政経営指針を委員の皆さんにお配りいただきたいと思っています。スクラップアンドビルドからリセットの話も指針に盛り込まれており、行政は税金を使うことしか考えないという、そういう時代はもう終わったということは、そこに明確にうたわれています。お金を使うことだけではなくて、もっと白井にある人であったり、知恵であったりという、資源を可能な限り引き出していくという方針で行政経営改革はうたわれており、それに基づいて評価をしていくという組み立てになっています。これもあれもという議論になりがちですが、もうそういう時代ではないというところを踏まえた上で評価していただくことになります。

#### 【委員】

ヒアリングシートは施策ごとに書くということですが、たくさん書かれる方もいらっしゃる中で、全部対応していただけるのでしょうか。いろいろな書き方があって、本当に細かいところから見方もいれば大きく見る方もいらっしゃると思いますが、自由に書いていいのでしょうか。

#### 【事務局】

書き方が委員の皆さんで違うことはあると思いますが、自由に書いていただいて、似たような質問についてはまとめるなど、事務局で対応させていただきます。

#### 【会長】

個別の事業を細かく掘り下げるというのは、なかなか量的に難しいかと思うのですが、施策全体としていろいろな視点があると思いますので、それを自由に記述いただいていると思います。ある程度事務局のほうで集約してくれるところもあると思います。また、当日思いついたことを質問しても、構わないと思いますので、まずは事前に質問したいことを整理しておいて、担当のほうにもしかるべき情報等は事務局から確認していただ

いた上でヒアリングに臨むという形にします。

**【委員】**

行政経営指針の送付は、早いほうが良いです。

**【事務局】**

できる限り早く送付します。

**【会長】**

今年度の評価対象施策は、事務局案の4つということで、ご了承いただけますか。

**【複数の委員】**

はい。

**【会長】**

ありがとうございます。それでは、今年度は、この4施策、来年度は残りの5施策について審議会で評価していくということとします。

**(4) その他**

**【会長】**

(4) その他について、事務局のほうからお願いします。

**【事務局】**

行政経営指針は、明日発送し、その後9月8日を目途に、事務事業評価シートを発送します。委員の皆様には、9月29日までにヒアリングシートの提出をお願いします。

次回10月13日に外部評価を実施しますが、正式な通知も、後日送付させていただきます。それとあわせて、12月の日程調整もその際にさせていただきたいと思いますので、ご協力をよろしくお願いします。

**【会長】**

日程的に、いろいろと読んでいただく部分があり、日程的にタイトなところもありますが、施策評価シートと事務事業評価シートをご覧いただいた上で、9月29日までに事前の質問シートをご記入いただき、事務局に送付していただくこととなります。

今回、評価していただいたことは、審議会でまとめて意見として市のほうに出し、来年度に間に合う部分については、可能な限り反映させるというタイムスケジュールになります。自治体によっては、来年度の予算に間に合わなくて、その翌年度に反映させるところも少なくありません。白井としては、可能な限り翌年度にも反映させられる部分は反映させると考えておりますので、それを念頭に置いて、こういったスケジュールになっているということは、併せてご承知おきいただければと思います。

大変な宿題が出ていますが、ご協力をお願いしたいと思います。

**閉会**

それでは、第2回白井市総合計画審議会を以上で閉会させていただきます。どうもお疲れさまでした。